

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171000094		
法人名	株式会社ふとみ総合施設		
事業所名	グループホーム公楽苑ほほえみ(ほほえみⅠ)		
所在地	北海道石狩郡当別町太美南818番地62		
自己評価作成日	平成24年10月25日	評価結果市町村受理日	平成25年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に密着した住みやすい環境を作りご入居者様の思いを尊重し、心ふれあう介護をめざし日々、より良い満足したケアを求め続けます。

スタッフ一人一人がご入居者様と向き合い、毎日健康で楽しく生活していただける環境作りをしています。また、ご入居者様の心身の状態や状況に合わせたサービスの提供と支援を行っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kan=true&JigyosyoCd=0171000094-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成24年11月15日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所はJR駅からそう遠くない静かな田園地帯に立地し、温泉施設やコンビニなども近く、自然が豊かなだけでなく利便性に恵まれた環境下にある。母体は特定施設や訪問看護なども地域で展開しており、当事業所も地元のニーズを受け止め、介護保険施行の2年後にマンションの10階に1ユニットで設立され、その後もう1ユニット増設され、平成21年に近隣の当地に転居した経緯がある。建物は2階建てで周囲の景観に溶け込んでおり、穏やかな生活を感じ取れる佇まいである。事業所の優れている点は、母体の複合的な機関を活用したケアへの取り組みである。母体の看護師は急変時や必要時に数分で駆けつけられる体制で臨んでいる。車両の利用や散歩時の休憩所などとしての活用も日常的であり、近々開設するデイサービスのお風呂の利用も楽しみとなっている。また、職員に対する研修や講習も母体法人で行う以外にも事業所で独自に取り組んでおり、その姿勢は地域住民との密な交流へと繋がり、信頼の基礎となっている。今後も新しい工夫やアイデアによる、より高質で豊かなケアが期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほほ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほほ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほほ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほほ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほほ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内(職員休憩所他)に掲示し、常に意識・実践できるように取り組んでいる。	理念を見える場所に掲示し、いつも確認し共有している。また、理念をより実践化した目標を掲げ、常に達成を意識しながらケアに努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	年に一度、ホーム主催の夏祭り(ほほえみ祭り)の開催、また町内行事(草刈り・ごみ拾い)には積極的に参加しています。	町内会とは良好な関係を維持しており、野菜や花類の差し入れも頻繁で、事業所もゴミ拾いや草刈りなど、主体的に参加し地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議には、町内会長・民生委員にご参加頂き、当ホームの取り組みについて発信しています。また、今後は認知症サポーターへの取り組みを行っていきたいと思っております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議にて(地域包括支援センター・介護福祉課・町内会長・民生委員・ご家族様代表参加)状況の報告・意見交換を行い、サービス向上に努めています。	2ヶ月毎に定期的開催している。委員は地域代表や行政、包括支援センター、家族がメンバーで、また、関係者には全家族を含め開催参加を呼びかけている。議事録についても全委員、全家族に送付しており、運営推進委員会を通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通し市町村担当者との意見交換及び連携、また定期的な地域ケア会議に参加し、情報交換を行えるよう取り組んでいます。	行政が参加する地域ケア会議へ参加している。介護保険の更新申請時の情報交換など、色々な機会を活用して協力関係を構築し、なんでも相談できるよう連携に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体法人の身体拘束委員会を中心とし、研修や勉強会へ参加し意識統一を図るとともに、マニュアルの作成もおこなっております。	マニュアルを中心に身体拘束委員会による研修を定期的に行い、抑制も含め職員間でお互いに注意し合い、拘束が入り込まないケアに繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員セミナーの参加により、職員間での意識統一を図っています。また、ミーティング等でケアの内容を話し合い、見過ごさないよう努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフがセミナーに参加し、カンファレンス及び部会にて職員に伝達情報を確認しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望者及び見学者に対し施設の説明、現在問題になっている状況の相談や「運営規定」「重要事項説明書」「入居契約書」の説明及び今後の説明などに取り組んでいます。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営懇談会、面会時における家族の相談、利用者様の要望など反映できるように努めて居ります。家族の面会の際、最近の生活状況及び変化などを報告、急変時には緊急にて、都度 連絡報告しております。また施設のおたよりにてメッセージを添え毎月発信しております。	施設のお便りにメッセージを添えて毎月家族へ送り、日頃の生活の様子を遅滞なく伝えている。また、定期的にアンケートを実施し、意見や要望・苦情の把握に積極的に取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なスタッフミーティングを設け、職員と話合う機会を設けています。また随時個別面談等も行い、職員に対し個別への対応も行い、より良い運営に繋げています。	人事考課制度により年に2回の面談があり、職員の要望や意見を反映出来るように努めている。日常的にも各種のミーティングが用意されており、意見の出やすい環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年二回の人事考課を行い、やりがい・向上心を持てるよう努めています。また、個人目標など自己課題設定にも取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修やセミナーに参加しスキルアップの向上に努めています。また、自施設内においても勉強会の実施を行い、スキルアップ向上を図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議への参加、また当別町主催の勉強会に定期的に参加し、交流やネットワークづくりを行うと共にサービス向上に努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	ご本人・ご家族様からの情報をできる限り収集し、またセンター方式の活用にも取り組み、情報の分析をより密に行えるようにしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めています。	自施設にて行える対応等を十分に説明し、また主治医と話し合う場を設けるなどし、安心して頂ける関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	まずは、求めている事が話しやすい関係づくりに努め、見極めには、センター方式の活用や職員ミーティングでの十分な話し合い、また、関係機関(主治医等)とも協力し対応にあたっています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご入居者様の発揮できる能力を見極め、その能力を無理なく発揮できる環境作りを行っています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご入居者様のご家族の来訪は常に自由に行えるようにしております。また、行事にはご家族様にも参加して頂けるようご案内し、ご本人と共に楽しんでいただける機会を設けております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご入居者様のご友人のご来訪は自由に行えるようにしております。また、地域のお祭りに出掛けるなどし、交流できるよう支援に努めております。	利用者が従前より通っている洋裁教室に、今も通えるように支援したり、生活していた地域での催しやお祭りに参加したり、馴染みの途切れない支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日常生活にて、ご入居者様同士が協力・連携できる場を設け(調理・お掃除など)支えあえる支援を行っています。また孤立する事のないよう毎日、様々なレクリエーションを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護ケア記録や日常生活の提供に努めていくよう心掛けを目標にしておりますが、相談・支援の実績はありません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人・ご家族様からの情報収集、また日常生活から思いや意向が把握できるよう、スタッフからの情報の汲み取りを行い、ミーティング等にて話し合いを検討しています。	日頃の生活の中から感じ取れた思いや、本人や家族からの聞き取りを柱に、得た情報や認識を職員で共有し、ケアになにが最良なのか検討を続けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、これまでの生活歴や暮らし方・環境等を情報収集し環境の変化が利用者様の心身に負担とならないよう努力しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式の活用、密な個別記録により現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時、ケアカンファレンスを行い課題について話し合っています。その課題を踏まえ、関係機関(主治医・栄養士)・ご家族様の意見を聞き、介護計画に反映させております。	ケアの検討は介護職員や関係者全員が参加する体制となっており、家族を含んだ多方面からの意見が集約され、望ましい方向で介護計画が作成されている。	現状に見合った介護計画が作成されていることを評価したい。今後は介護計画による短期目標が、日々の生活のなかでいかに実行され、また、モニタリングの結果についての記録の充実に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録への記入の徹底に努め、職員間での情報の共有を行い、定期ミーティングにて話し合い、ケアに活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常にミーティングやカンファレンスが行えるようにし、速やかな対応ができるよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会行事の参加、ホーム主催祭りの開催にて近隣の方々、地域の方々と交流を深めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と主治医との話し合いの場を設けるなどし、納得のいく医療を受けられるよう支援しています。また、週一回の訪問看護、及び必要に応じて随時、母体法人の看護師により、日常的なサポートも行っていきます。	かかりつけ医への定期的受診や、急変時の病院対応もほぼ事業所で行っており、診療内容は利用者家族へ欠かさずその都度報告している。また、往診や訪問看護も随時対応しており、安心な医療体制の取り組みに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制で、主治医・看護師と連絡が取れ、指示を仰げる体制を整えています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医と入院先の病院担当者及びソーシャルワーカーと連絡相談を行い、施設での受け入れ体制を整え早期退院に向け努力しています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人の看取り介護指針に則り、ご入居者様・ご家族・主治医と何度も話し合い、状態に応じて一番良いケアを提供できるよう各部署関係機関と連携をとり取り組んでおります。また、実際の看取り介護を経験し、振り返りにてスタッフ・ご家族様との連携を取れるよう体制を整えています。	契約時に看取りの指針を利用者と家族に書面で説明している。重篤となった場合、再度医師を含め家族と話し合い、本人・家族の意向に添えるよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応時のマニュアルの作成を行い、職員に徹底しています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各マニュアル等を作成。市町村の緊急対策資料に基づき年二回避難訓練及び緊急連絡網の作成を行っております。また、地域の避難訓練にも参加し、地域との協力体制の築きにも努めています。	年に2回、火災の想定で消火と避難訓練を行っている。消防署の指導を得ながら住民参加で行っており、安全安心な生活になるよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングや勉強会を行い、職員全員が尊厳を大切にしたケアを行えるよう努めています。	接遇に力を入れて研修会や勉強会を開き、誇りやプライバシーを傷つけないように、日頃から努力を重ねている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような声掛け、お話の傾聴を行い支援するよう努めています。また、支援についての勉強会も行っています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意向やペースを汲み取り、安心して過ごせる手助けのケアを心掛けています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容の活用、また、女性のご入居者様にはおしゃれ(お化粧)をして頂く機会を設けております。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者様の状態に合わせ、調理・片付けができるよう支援しています。	管理栄養士が献立をたて、栄養バランスに注意をし、利用者各自のレベルに見合ったお手伝いで、食事を皆で楽しむ工夫を凝らしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理士のもと、個々の食事摂取能力に合わせたお食事の提供をしています。また、お好みなども把握し、随時提供できるようにしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に口腔ケアの支援を行っております。また、お食事前にも緑茶でのうかいを行い、口腔内衛生向上、感染症などの防止に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の習慣・リズムを見極め、定期的な促し・誘導を行い、できる限りトイレでの排泄を行えるよう支援しています。	トイレでの排泄を行えるよう個々人のリズムを把握し誘導を行い、リハビリパンツも極力はずせるように工夫をもって取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の記録の徹底、水分量の把握を重点的に行っています。また、毎日の運動、甘味料にオリゴ糖を使用するなどの予防にも取り組んでおります。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の身体状況に合わせた入浴介助を行い、入浴を楽しんで頂けるよう努めております。	週に2回以上の入浴ができるように努め、近隣の温泉やデイサービスの大型浴槽での入浴も視野に入れて、楽しい入浴になるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを把握し、体に負担なく生活して頂けるよう、睡眠の促し、支援を行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示のもと服薬内容等を把握し、症状など変化があればすぐに連絡し指示を仰ぐよう連携を取り管理・服薬の支援を行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクリエーションの他、お一人お一人に合わせたレクリエーションを行えるよう力を入れております。また、個々の身体状況・能力に合わせた日常生活での家事業務の支援をし、役割を感じて頂ける様にしております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望を出来る限る取り入れ、ご家族様・関係機関の協力を得て支援しています。	季節のお花見や紅葉狩り、また、買い物や近所の散歩などにより、家族の協力を得ながら外出の機会を多くするように努めている。	道路などの環境的な未整備もあるが、外気浴を含め外出の重要性を再度認識し、気軽な外出や戸外へのお出かけの機会がより増えるように期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	混乱防止の為、現金の所持はされていませんが、買い物の際、介護員支援のもと、お支払いして頂くなどしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人のご希望に応じ対応・支援しています。ご本人の手紙を読んで差し上げ、ご家族様からのお気持ちをお伝えしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間においては、季節感及び生活間を感じるような貼り絵等をご入居者様と一緒に作製し、また室温・湿度に気を配り心地よく過ごせるよう努めています。また、夏場にはテラスを利用し、お茶を飲んで頂いたりし、季節を楽しんで頂けるようにしています。	明るく採光に満ちた居間は、利用者作製の季節感あふれる貼り絵などが飾られ、落ち着いた雰囲気であり、大きなテラスも色々な用途に活用され、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	生活空間を演出出来る様、落ち着いた空間作りを中心に掛けています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々生活にて使用している慣れ親しんだ物を使用して頂き、動作及び持ち物がご自分の物である理解力及び使用方法について支援しています。	小さなタンスなどの家具類や、身近な日用品に囲まれた居室となっており、暖かく落ち着いた生活が望めるような工夫が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部に手すりの設置、つまづき防止にバリアフリー、廊下は、歩行補助具の使用に十分なスペースを確保しています。またトイレには分かりやすい表示や装飾をし、自立を促せるよう工夫しています。		